

【注意】

- ・原則として、配管系のプラスチックやゴムを傷める有機溶媒の使用不可！
- ・特に、塩素系溶媒はアクリル製のフタも傷めるので絶対に不可！
- ・使用簿に使用溶媒を記載して下さい。

--- 【使用開始】 -----

0. 低温トラップ内を確認

液体が残っていたら、使用簿を見て、前の使用者に処理を要請する。

もしくは、廃液処理規定に従って自分自身で処理する。

(トラップ後方下のドレインより液抜き／内部の拭き取り → 適切に処理)

1. 低温トラップ ON → 10～15 分待つ

電源スイッチはトラップ前面

十分冷えないとトラップされず、真空ポンプを傷めます。

2. 遠心機部 (Speed Vac) 操作

0) ローターを選択して取り付ける

(2 種から選択／軸のピンをローターの溝に合わせる／手締め！)

1) 試料をローターにセット

(配置と重量バランスに配慮)

2) フタをして CONCENTRATOR スイッチ: ON

(回転が始まる。減圧前に回転しないと突沸する。)

3) 温度 (Drying Rate) 設定

(High: 60°C, Medium: 43°C, Low: Heater Off いつでも変更可)

3. 減圧開始

0) 真空ポンプオイルの確認 (きれいで、十分量あるかどうか。)

1) 三方コックを操作 (真空ポンプとトラップの間のガラス製コック)

(T 字の上の横線でラインをつなぎ、下向き線を内側にして塞ぐ。)

2) 真空ポンプ ON (電源スイッチはテーブルタップ上)

(すぐに音が静かにならなければ異常)

--- 【使用終了】 -----

4. 減圧停止

1) 三方コックを操作 (系を大気圧に戻す。急激に空気を入れると試料を汚す。)

2) 真空ポンプ OFF (コック操作後すぐに！)

(途中で濃縮状況を見る場合、適当なコック操作をすれば、ポンプは停止しなくても可。)

5. 遠心機部停止 → 試料回収

1) Drying Rate: Low (Heater Off)

2) CONCENTRATOR: OFF (回転停止)

3) 試料の回収 (完全に回転が止まってから)

6. 低温トラップ OFF

7. トラップ内温度が上がったら、貯留液を学内規定に従って適切に処理。

使用者の実験廃液です。責任をもって処理しましょう。